AVS- ACI 1.2(x) リリースを使用した GoTo (L3) モードの ASAv

内容

概要

前提条件

要件

<u>使用するコンポーネント</u>

設定

<u>ネットワーク図</u>

設定

確認

トラブルシュート

関連情報

概要

このドキュメントでは、ACI 1.2を使用してクライアントとサーバ間の通信を確立するために、 L4-L7サービスグラフとして、Routed/GOTOモードの適応型セキュリティ仮想アプライアンス (ASAv)シングルファイアウォールを導入する方法について説明しますx)リリース

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

アクセスポリシーが設定され、インターフェイスがアップおよびインサービスEPG、ブリッジドメイン(BD)および仮想ルーティングおよび転送(VRF)はすでに設定されて います

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

ハードウェアおよびソフトウェア:

- UCS C220 2.0(6d)
- ESXi/vCenter:5.5
- ASAv:asa-device-pkg-1.2.4.8
- AVS 5.2.1.SV3.1.10
- APIC 1.2(1i)
- リーフ/スパイン 11.2(1i) デバイスパッケージ * .zipはすでにダウンロードされています

機能

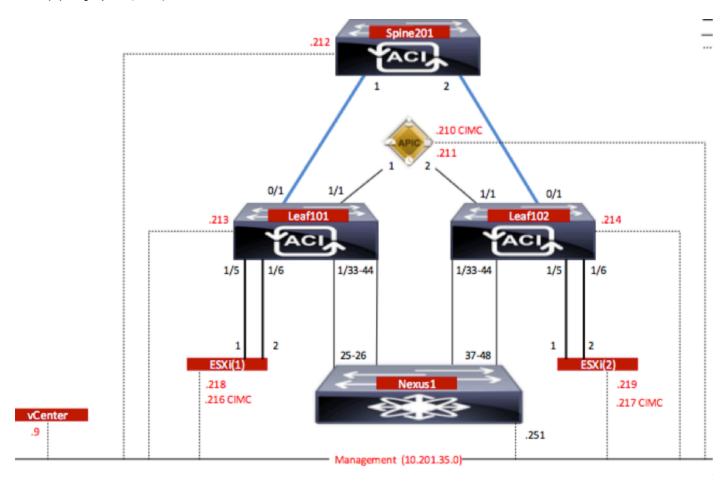
- AVS
- ASAv
- EPG、BD、VRF
- Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト)
- L4-L7サービスグラフ
- vCenter

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期(デフォルト)設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

設定

ネットワーク図

この図に示すように、



設定

AVS Initial Setup creates a VMware vCenter Domain (VMM統合) 2

注:

• 1つのドメインに複数のデータセンターおよび分散仮想スイッチ(DVS)エントリを作成できます。ただし、各データセンターに割り当てることができるCisco AVSは1つだけです。

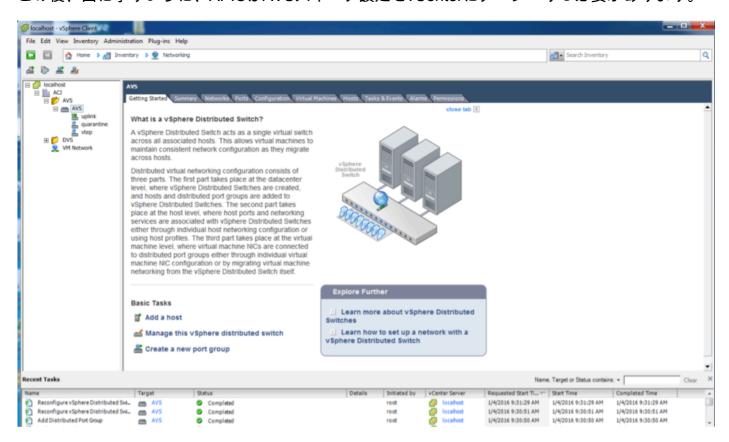
- Cisco AVSを使用したサービスグラフの導入は、Cisco ACIリリース1.2(1i)とCisco AVSリリース5.2(1)SV3(1.10)からサポートされています。 サービスグラフ全体の設定は、Cisco Application Policy Infrastructure Controller(Cisco APIC)で行います。
- Cisco AVSを使用したサービス仮想マシン(VM)の展開は、Virtual Local Area Networks(VLAN)カプセル化モードを使用するVirtual Machine Manager(VMM)ドメインでのみ サポートされます。ただし、コンピューティングVM(プロバイダーおよびコンシューマ VM)は、Virtual Extensible LAN(VXLAN)またはVLANカプセル化を使用するVMMドメインに 属することができます。
- また、ローカルスイッチングを使用する場合は、マルチキャストアドレスとプールは必要ありません。ローカルスイッチングが選択されていない場合は、マルチキャストプールを設定する必要があり、AVSファブリック全体のマルチキャストアドレスはマルチキャストプールに含まれません。AVSから発信されるすべてのトラフィックは、VLANまたはVXLANカプセル化されます。

図に示すように、[VM Networking] > [VMWare] > [Create vCenter Domain]に移動します。

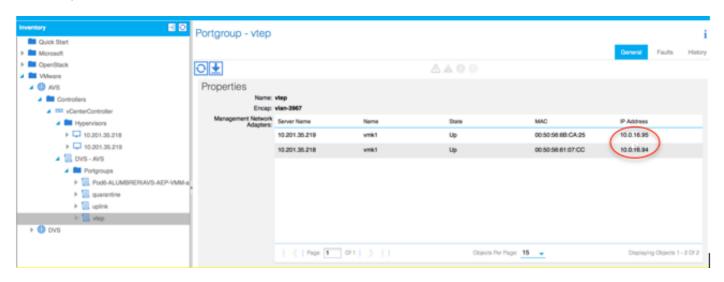
eate vCenter Domain					•
Specify vCenter domain users and co	ontrollers				
Virtual Switch Name:					
Virtual Switch:	VMware vSphere D	istributed Switch	Cisco AVS		
Switching Preference:	No Local Switching	Local Switching			
Encapsulation:	0				
	O VXLAN				
Associated Attachable Entity Profile:	AEP-AVS		P		
VLAN Pool:	VlanPool-AVS(dynam	nic) 🔻	Ø		
Security Domains:			× +		
•	Name	Description			
vCenter Credentials:				×	+
	Profile Name	Username	Description		
	vCenterCredentials	root			
vCenter:				×	+
	Name vCenterController	IP	Туре	Stats Collection	1

ポートチャネルまたはVPC(仮想ポートチャネル)を使用している場合は、vSwitchポリシーを設定してMacピニングを使用することを推奨します。

この後、図に示すように、APICはAVSスイッチ設定をvCenterにプッシュする必要があります。



APICでは、VXLANトンネルエンドポイント(VTEP)アドレスがAVSのVTEPポートグループに割り当てられていることがわかります。このアドレスは、使用されている接続モード(VLANまたはVXLAN)に関係なく割り当てられます



vCenterへのCisco AVSソフトウェアのインストール

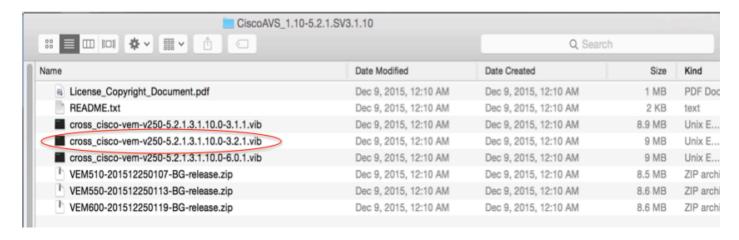
• このリンクを使用してCCOからvSphere Installation Bundle(VIB)をダウンロード<u>します</u>

注: この場合、ESX 5.5を使用しています。表1に、ESXi 6.0、5.5、5.1、および5.0の互換性マトリクスを示します

表1:ESXi 6.0、5.5、5.1、および5.0のホストソフトウェアバージョンの互換性

many i remain repriete con-	Type rise commercion persons resista	the Control of the Co								
VMware 1	VNB 2	VEM Bundle 2	Windows VC Installer	Linux vCenter Server Appliance						
ESXI 6.0	cross_cisco-vem- v250-5.2.1.3.1.10.0-6.0.1.v/b	VEM800-201512250119-BG-release.zip (Offline) VEM800-201512250119-BG (Online)	6.0	6.0						
ESXI5.5	cross_cisco-vem- v250-5.2.1.3.1.10.0-3.2.1.vib	VEM550-201512250113-BG- release.zip (Offline) VEM550-201512250113-BG (Online)	5.5	5.5						
ESXI 5.1	oross_cisco-vem- v250-5.2.1.3.1.10.0-3.1.1.vib	VEM510-201512250107-8G- release.zip (Offline) VEM510-201512250107-8G (Online)	5.1	5.1						
ESXI 5.0	cross_cisco-vem- v250-5.2.1.3.1.10.0-3.0.1.vib	VEM500-201512250101-8G- release.zip (Offline) VEM500-201512250101-8G (Online)	5.0	5.0						

ZIPファイル内には3つのVIBファイルがあり、ESXiホストバージョンごとに1つずつ、図に示すようにESX 5.5に適した1つを選択します。



• VIBファイルをESX Datastoreにコピーします。これは、CLIを使用するか、vCenterから直接 実行できます

注:VIBファイルがホスト上に存在する場合は、**esxcli** software vib removeコマンドを使用 **して削除**します。

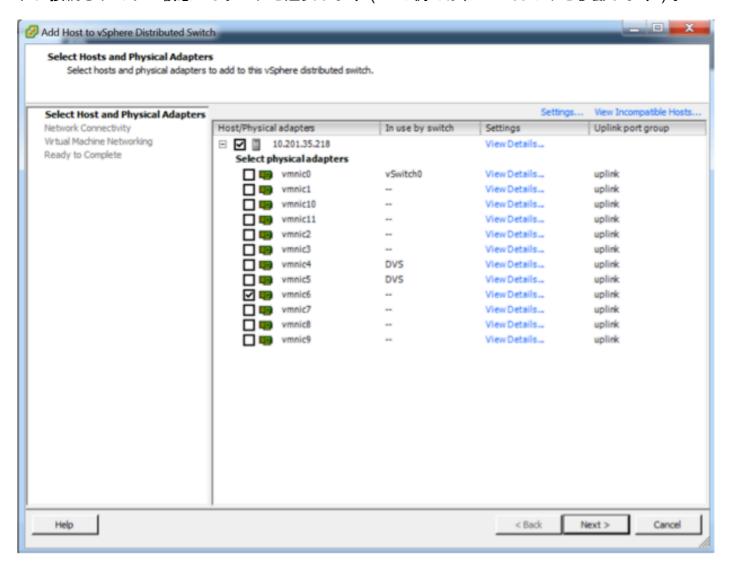
esxcliソフトウェアvib remove -n cross_cisco-vem-v197-5.2.1.3.1.5.0-3.2.1.vib

またはデータストアを直接参照します。

• ESXiホストで次のコマンドを使用して、AVSソフトウェアをインストールします。 esxcli software vib install -v /vmfs/volumes/datastore1/cross_cisco-vem-v250-5.2.1.3.1.10.0-3.2.1.vib —maintenance-mode —no-sig-check

```
# esxcli software vib install -v /vmfs/volumes/datastore1/cross_cisco-vem-v250-5.2.1.3.1.10.0-3.2.1.vib --maintenance-mode
Installation Result
   Message: Operation finished successfully.
   Reboot Required: false
   VIBs Installed: Cisco_bootbank_cisco-vem-v250-esx_5.2.1.3.1.10.0-3.2.1
   VIBs Removed: Cisco_bootbank_cisco-vem-v197-esx_5.2.1.3.1.5.0-3.2.1
  VIBs Skipped:
  # vem status
VEM modules are loaded
Switch Name
                 Num Ports
                             Used Ports
                                         Configured Ports
                                                                    Uplinks
vSwitch0
                 5632
                                                                    vmnic0
                             Used Ports
                                         Configured Ports
DVS Name
                 Num Ports
                                                                    Uplinks
                                                            MTU
DVS
                 5632
                                                                    vmnic5.vmnic4
                             10
                                          512
VEM Agent (vemdpa) is running
```

• Virtual Ethernet モジュール(VEM)が起動したら、AVSにホストを追加できます。 図に示すように、[Add Host to vSphere Distributed Switch]ダイアログボックスで、リーフスイッ チに接続されている仮想NICポートを選択します(この例では、vmnic6のみを移動します)。



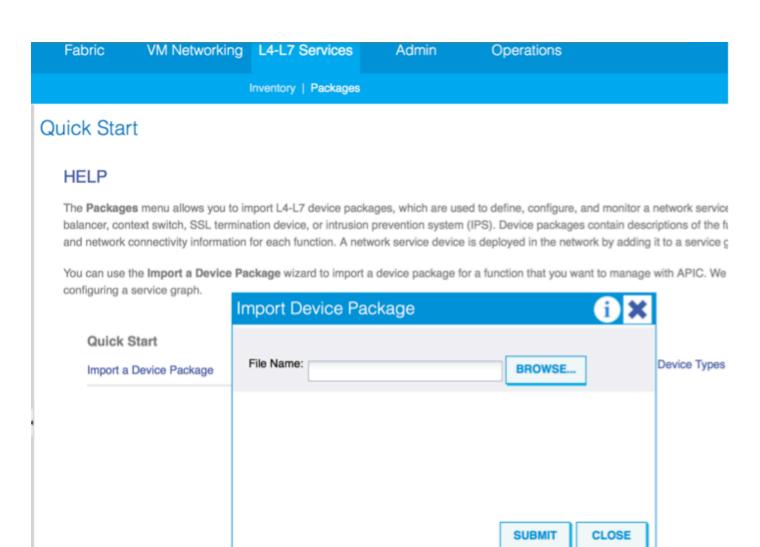
- [Next] をクリックします。
- [ネットワーク接続]ダイアログボックスで、[次へ]をクリックします
- [仮想マシンネットワーキング]ダイアログボックスで、[次へ]をクリックします
- [完了準備]ダイアログボックスで、[完了]をクリック**します**

注:複数のESXiホストを使用する場合は、すべてのホストでAVS/VEMを実行して、標準スイッチからDVSまたはAVSに管理できるようにする必要があります。

これでAVSの統合が完了し、L4-L7 ASAvの導入を続行する準備が整いました。

ASAvの初期設定

• Cisco ASAvデバイスパッケージをダウンロードし、APICにインポートします。 図に示すように、[**L4-L7 Services**] > [Packages] > [Import Device Package]に移動します。



すべてが正常に動作している場合、図に示すように、インポートされたデバイスパッケージが[L4-L7 Service Device Types]フォルダを展開していることがわかります。

L4-L7 Service Device Type - CISCO-ASA-1.2

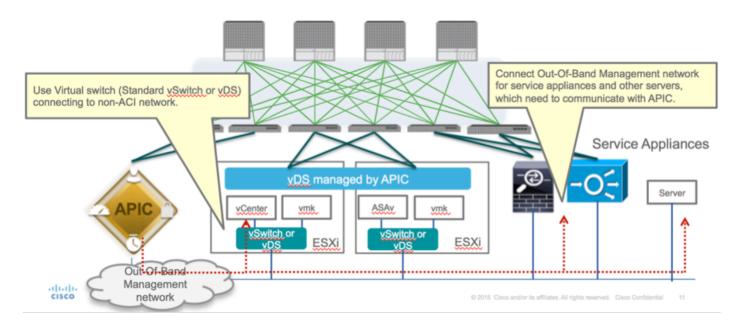
utility

Operational History ⊙ <u>↓</u> ACTIONS -Properties Vendor: CISCO 11 111 11 Model: ASA Capabilities: GoThrough,GoTo Major Version: 1.2 Minor Version: 4.8 Minimum Required Controller Version: 1.1 Logging Level: DEBUG Package Name: device_script.py Supported Protocols: | Interface Labels: Name cluster_ctrl_lk external failover_lan failover_link internal mgmt

続行する前に、実際のL4-L7統合を実行する前に、インストールのいくつかの側面を決定する必要があります。

管理ネットワークには、インバンド管理とアウトオブバンド(OOB)の2種類があり、これらは ASAv、ロードバランサなどの基本的なアプリケーションセントリックインフラストラクチャ (ACI)に含まれないデバイスの管理に使用できます。

この場合、ASAvのOOBは標準vSwitchを使用して展開されます。ベアメタルASAまたはその他のサービスアプライアンスやサーバの場合は、図に示すように、OOB管理ポートをOOBスイッチまたはネットワークに接続します。



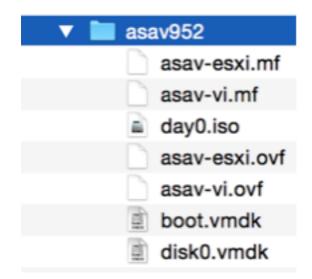
ASAv OOB管理ポート管理接続は、ESXiアップリンクポートを使用してOOB経由でAPICと通信する必要があります。vNICインターフェイスをマッピングする場合、Network adapter1は常にASAvのManagement0/0インターフェイスとに一致し、残の残はNetwork adapter2から開始します。

表2に、ネットワークアダプタIDとASAvインターフェイスIDの対応を示します。

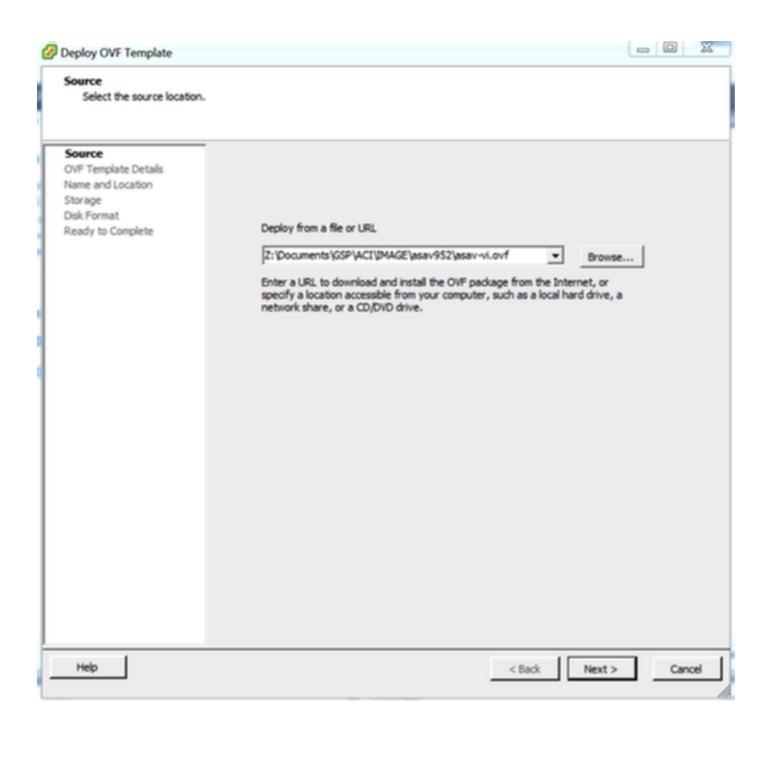
表 2

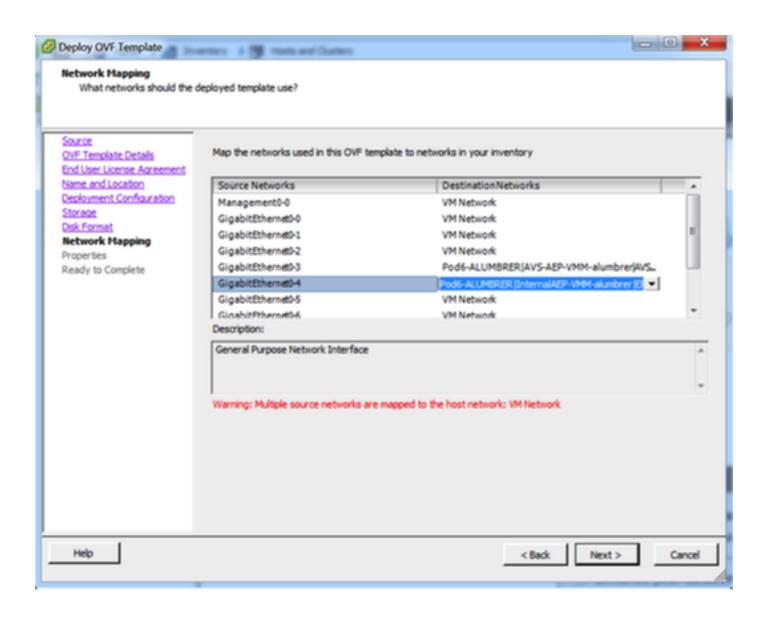
Network Adapter ID	ASAv Interface ID
Network Adapter 1	Management0/0
Network Adapter 2	GigabitEthernet0/0
Network Adapter 3	GigabitEthernet0/1
Network Adapter 4	GigabitEthernet0/2
Network Adapter 5	GigabitEthernet0/3
Network Adapter 6	GigabitEthernet0/4
Network Adapter 7	GigabitEthernet0/5
Network Adapter 8	GigabitEthernet0/6
Network Adapter 9	GigabitEthernet0/7
Network Adapter 10	GigabitEthernet0/8

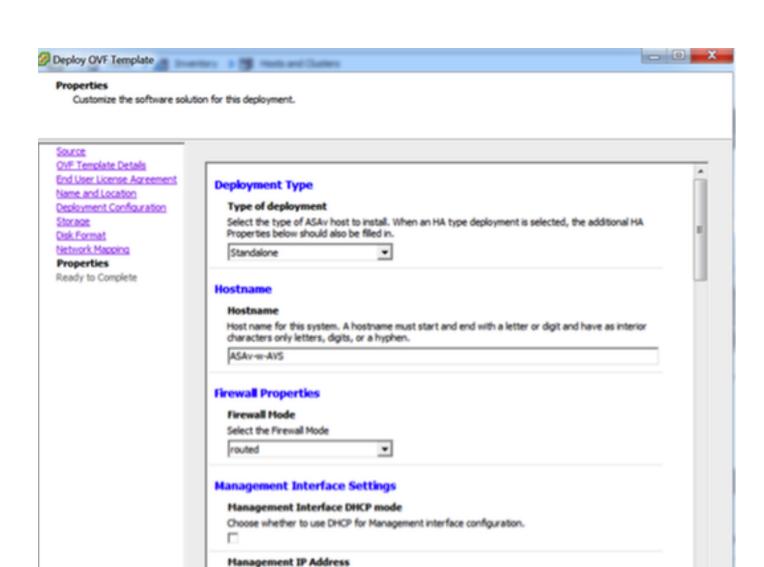
- [File] > [Deploy OVF (Open Virtualization Format) Template]のウィザードを使用して、ASAv VMを展開します
- スタンドアロンESX ServerまたはvCenterにasav-viを使用する場合はasav-esxiを選択します。
 この場合、vCenterが使用されます。

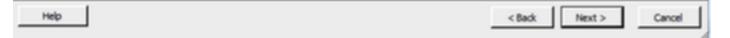


• インストールウィザードに進み、利用規約に同意します。ウィザードの途中で、ホスト名、管理、IPアドレス、ファイアウォールモード、ASAvに関するその他の特定の情報など、いくつかのオプションを決定できます。ASAvにはOOB管理を使用することを忘れないでください。この場合は、VMネットワーク(標準スイッチ)を使用している間はインターフェイスManagement0/0を維持する必要があり、インターフェイスGigabitEthernet0-8がデフォルトのネットワークポートです。





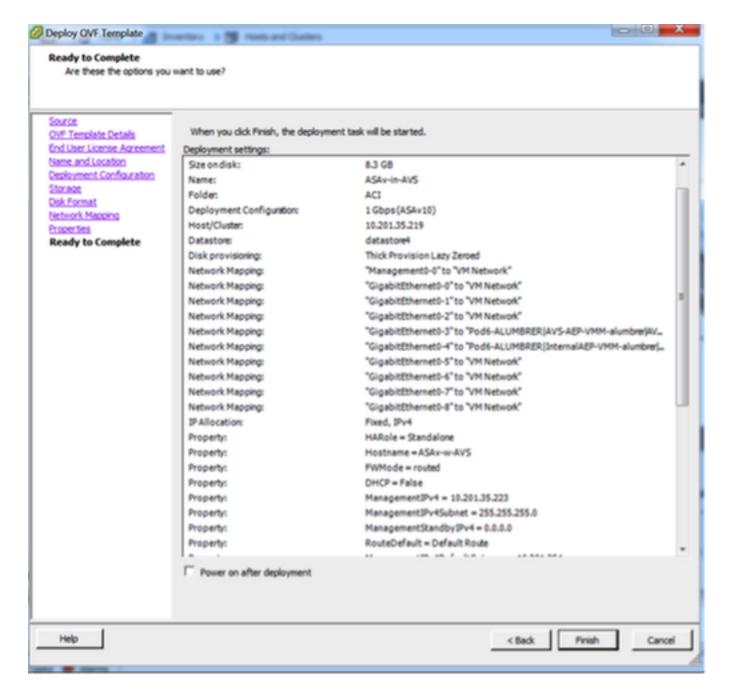




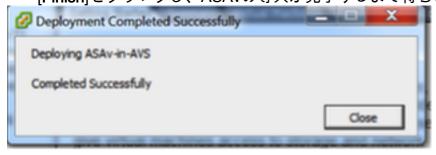
10 , 201 , 35 , 223

Hanagement IP Subnet Hask

Enter the Management IPv4 Address. For HA-type deployments, this property specifies the Management IPv4 address of the Active HA host.



• [Finish]をクリックし、ASAvの導入が完了するまで待ちます



• ASAv VMの電源をオンにし、コンソールからログインして初期設定を確認します。

```
interface Management0/0
management-only
nameif management
security-level 0
ip address 10.201.35.223 255.255.255.0
ftp mode passive
pager lines 23
ntu management 1500
no failover
icmp unreachable rate-limit 1 burst-size 1
no asdm history enable
arp timeout 14400
no arp permit-nonconnected
oute management 0.0.0.0 0.0.0.0 10.201.35.1 1
timeout ×late 3:00:00
timeout pat-xlate 0:00:30
timeout conn 1:00:00 half-closed 0:10:00 udp 0:02:00 sctp 0:02:00 icmp 0:00:02
timeout sunrpc 0:10:00 h323 0:05:00 h225 1:00:00 mgcp 0:05:00 mgcp-pat 0:05:00
timeout sip 0:30:00 sip_media 0:02:00 sip-invite 0:03:00 sip-disconnect 0:02:00
timeout sip-provisional-media 0:02:00 uauth 0:05:00 absolute
timeout tcp-proxy-reassembly 0:01:00
timeout floating-conn 0:00:00
 -- More --->_
```

• 図に示すように、一部の管理設定はすでにASAvファイアウォールにプッシュされています。 adminユーザ名とパスワードを設定します。このユーザ名とパスワードは、ASAにログイン して設定するためにAPICによって使用されます。ASAはOOBネットワークに接続でき、 APICに到達できる必要があります。

username admin password <device_password> encrypted privilege 15

```
ASAv-w-AVS(config)# username admin password C1sc0123 privilege 15
ASAv-w-AVS(config)# wr mem
Building configuration...
Cryptochecksum: d491b980 86fa522f 6f937baf b5bfb318

7977 bytes copied in 0.250 secs
[OK]
ASAv-w-AVS(config)# ping 10.201.35.211

Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.201.35.211, timeout is 2 seconds:
!!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/2/10 ms
ASAv-w-AVS(config)# _
```

さらに、グローバルコンフィギュレーションモードでhttp serverを有効にします。

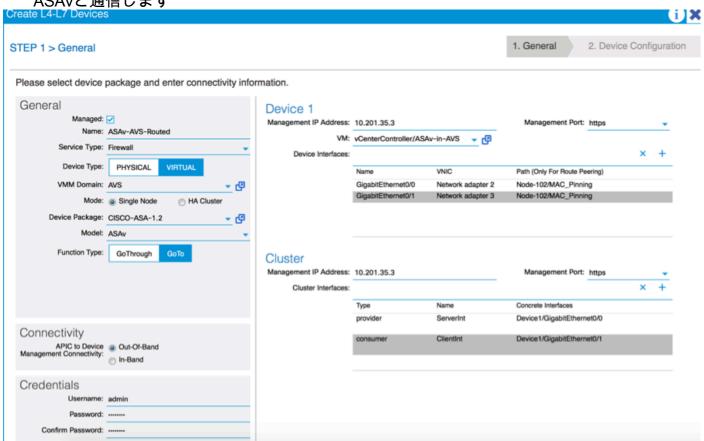
http server enable

http 0.0.0.0 0.0.0.0 management

APICでのASAv統合のためのL4-L7:

• ACI GUIにログインし、サービスグラフを展開するテナントをクリックします。ナビゲーションペインの下部にある[L4-L7 services]を展開し、[**L4-L7 Devices]を右クリック**し、[**Create L4-L7 devices]をクリックしてウィザードを開きま**す

- この実装では、次の設定が適用されます。
- マネージモード
- ファイアウォールサービス
- 仮想デバイス
- 単一ノードでAVSドメインに接続
- -ASAvモデル
- ルーテッドモード(GoTo)
- 管理アドレス(Mgmt0/0インターフェイスに割り当てられた以前のアドレスと一致する必要があります)
 - APICとしてHTTPSを使用するデフォルトでは、最もセキュアなプロトコルを使用して ASAvと通信します



導入を成功させるには、デバイスインターフェイスとクラスタインターフェイスを正しく定義することが重要です

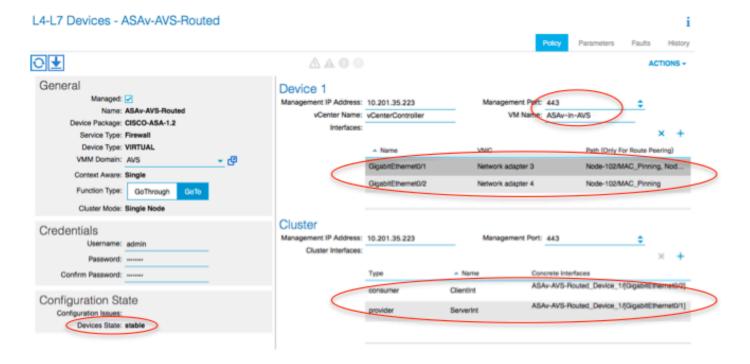
最初の部分では、前のセクションで示した表2を使用して、ネットワークアダプタIDと使用する ASAvインターフェイスIDを正しく一致させます。パスは、ファイアウォールインターフェイスの 出入りを可能にする物理ポート、ポートチャネル、またはVPCを指します。この場合、ASAは ESXホスト内に配置され、両方のインターフェイスの入出力が同じです。物理アプライアンスでは、ファイアウォール(FW)の内部と外部は異なる物理ポートになります。

2つ目の部分では、クラスタインターフェイスを常に例外なく定義する必要があります(クラスタ HAを使用していない場合でも)。これは、オブジェクトモデルがmlf**イ**ンターフェイス(デバイ スパッケージのメタインターフェイス)、**Llfインターフェー**ス(外部、内部、内部など)とClf(具体的なインタフェース)。 L4-L7の具体的なデバイスは、デバイスクラスタ設定で設定する必要があり、この抽象化は論理デバイスと呼ばれます。論理デバイスは、コンクリートデバイス上の具体的なインタフェースにマッピングされた論理インタフェースを有する。

この例では、次の関連付けが使用されます。

Gi0/0 = vmnic2 = ServerInt/provider/server > EPG1

Gi0/1 = vmnic3 = ClientInt/consumer/client > EPG2

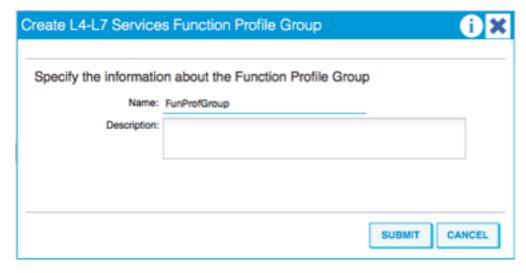


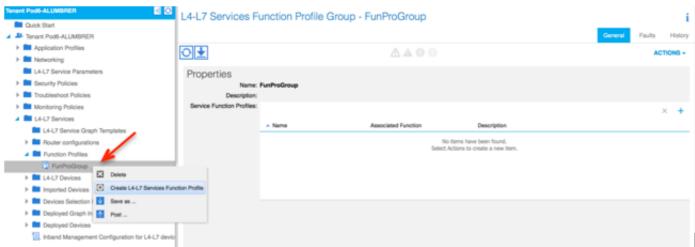
注:フェールオーバー/HAの導入では、GigabitEthernet 0/8がフェールオーバーインターフェイスとして事前設定されています。

デバイスの状態が安定しており、機能プロファイルとサービスグラフテンプレートを導入する準備が整っている必要があります

サービスグラフ寺

まず、ASAvの機能プロファイルを作成します。その前に、図に示すように、機能プロファイルグループを作成し、そのフォルダの下にL4-L7サービス機能プロファイルを作成する必要があります。





• ドロップダウンメニューから[WebPolicyForRoutedMode Profile]を選択し、ファイアウォール のインターフェイスの設定に進みます。以降の手順はオプションであり、後で実装または変 更できます。これらの手順は、サービスグラフの再利用可能またはカスタム化の方法に応じ て、導入のいくつかの段階で実行できます。

この演習では、ルーテッドファイアウォール(GoToモード)では、各インターフェイスに一意のIPアドレスが必要です。標準のASA設定には、インターフェイスのセキュリティレベルもあります(外部インターフェイスのセキュリティは低く、内部インターフェイスのセキュリティは高くなります)。 必要に応じて、インターフェイスの名前を変更することもできます。この例では、デフォルトを使用します。

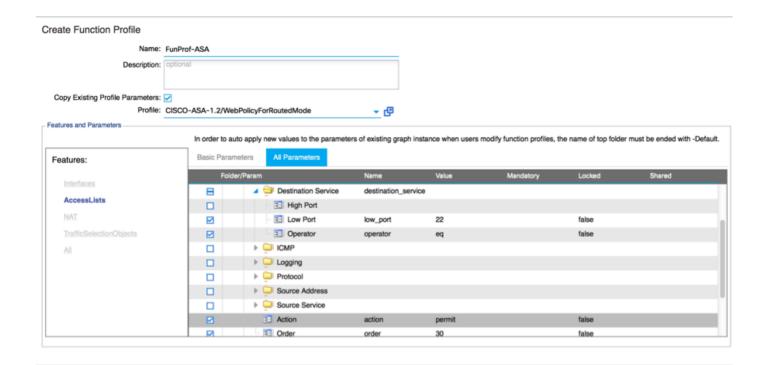
• [Interface Specific Configuration]を展開し、IPアドレスx.x.x.x/y.y.y.yまたはx.x.x.x/yyの次の形式でServerIntのIPアドレスとセキュリティレベルを追加します。ClientIntインターフェイスのプロセスを繰り返します。

Create Function Profile Name: FunProf-ASA Description: optional Copy Existing Profile Parameters: 🔽 Profile: CISCO-ASA-1.2/WebPolicyForRoutedMode **-** @ In order to auto apply new values to the parameters of existing graph instance when users modify function profiles, the name of top folder must be ended with -Default. Basic Parameters All Parameters Features: Interfaces ☐ ✓ ☐ Device Config. AccessLists ■ Bridge Group Interface ✓ Interface Related Configuration externallf folco folso ▶ □ Access Group ExtAccessGroup false ▶ □ IPv6 Enforce EUI-64 ▲ ☐ Interface Specific Configur... externallfCfg IPv4 Address Configura... 192,168,10,1/24 ☐ IPv4 Address ipv4_address IPv4 Standby Address UPDATE RESET CANCEL **=** ▶ □ IPv6 Address Configura...

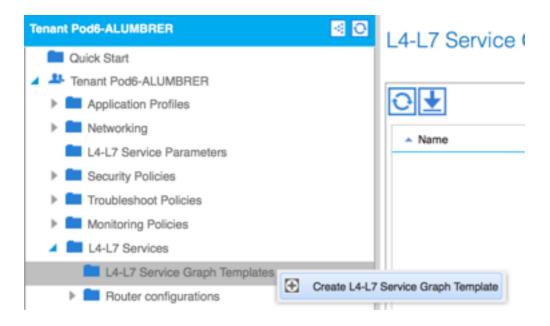
注:デフォルトのアクセスリスト設定を変更し、独自の基本テンプレートを作成することもできます。デフォルトでは、RoutedModeテンプレートにはHTTPおよびHTTPSのルールが含まれます。この演習では、許可された外部アクセスリストにSSHとICMPが追加されます

SUBMIT CANCEL

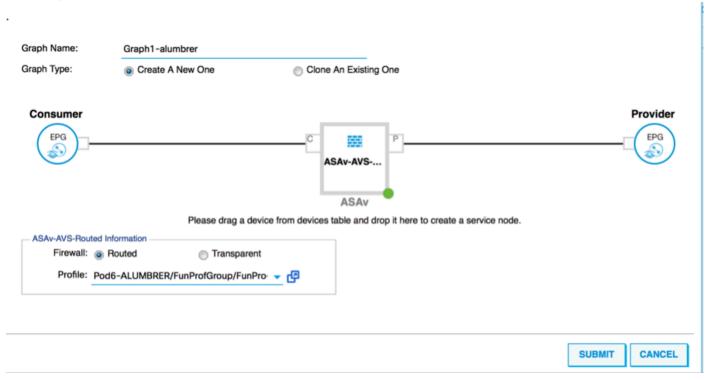
CANCEL CANCEL



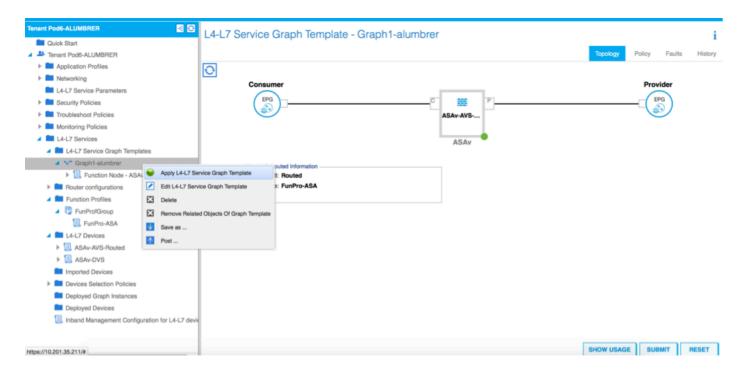
- 次に、[送信]をクリッ**クします**
- ここで、サービスグラフテンプレートを作成します



• デバイスクラスタを右側にドラッグアンドドロップして、コンシューマとプロバイダーの関係を形成し、[ルーテッドモード(Routed Mode)]と以前に作成した機能プロファイルを選択します。

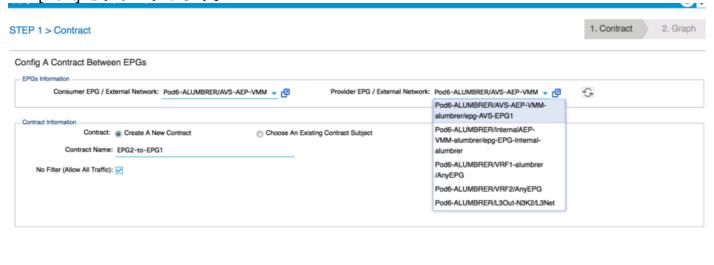


- テンプレートの障害をチェックします。テンプレートは再利用可能になるように作成され、 特定のEPGなどに適用する必要があります。
- テンプレートを適用するには、右クリックして[Apply L4-L7 Service Graph Template]を選択します



 どのEPGがコンシューマ側とプロバイダー側になるかを定義します。この演習では、AVS-EPG2がコンシューマ(クライアント)であり、AVS-EPG1がプロバイダー(サーバ)です。 フィルタは適用されないことに注意してください。これにより、ファイアウォールは、この ウィザードの最後のセクションで定義されたアクセスリストに基づいてすべてのフィルタリ ングを実行できます。

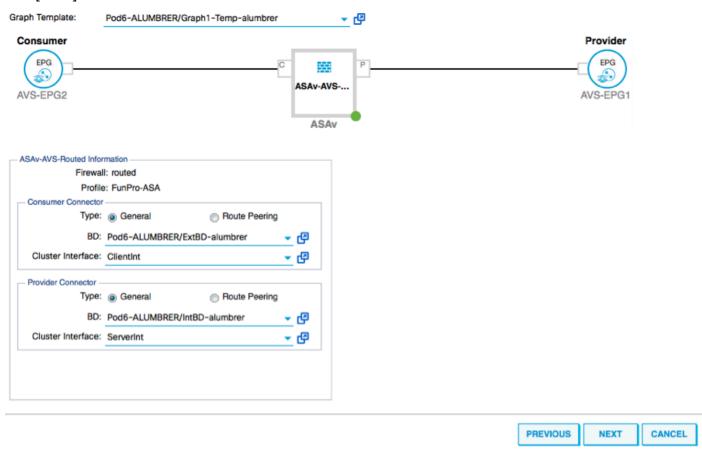
• [Next] をクリックします。



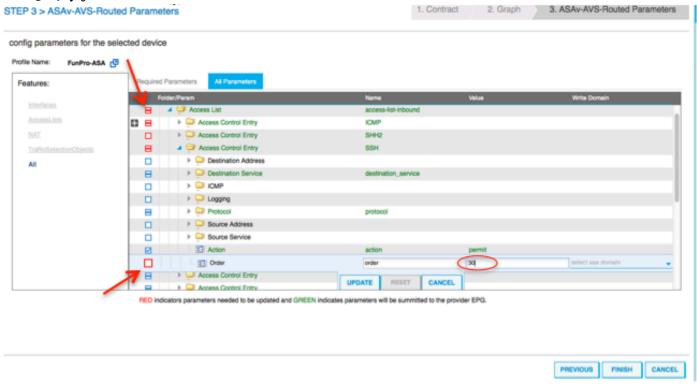
 各EPGのBD情報を確認します。この場合、EPG1はIntBD DBのプロバイダーであり、 EPG2はBD ExtBDのコンシューマです。EPG1はファイアウォールインターフェイス ServerIntに接続し、EPG2はインターフェイスClientIntに接続します。両方のFWインターフェイスが各EPGのDGになるため、トラフィックは常にファイアウォールを通過するように強制されます。

PREVIOUS NEXT CANCEL

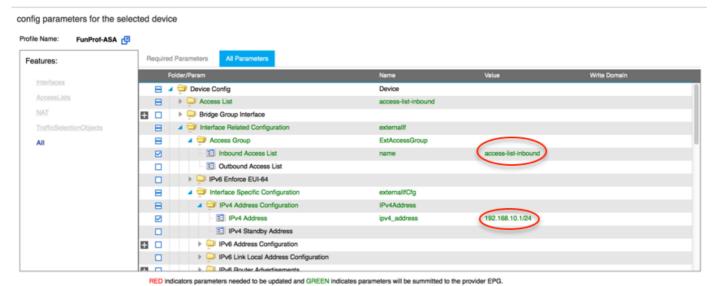
• [Next] をクリックします。



• [Config Parameters]セクションで[All Parameters]をクリックし、更新または設定が必要な REDインジケータがあるかどうかを確認します。図に示す出力では、アクセスリストの順序 が間違っていることがわかります。これは、show ip access-list Xで表示される回線順序と同 じです。



• 先に定義した機能プロファイルから割り当てられたIPアドレスを確認することもできます。 必要に応じて情報を変更する可能性が高くなります。すべてのパラメータを設定したら、図

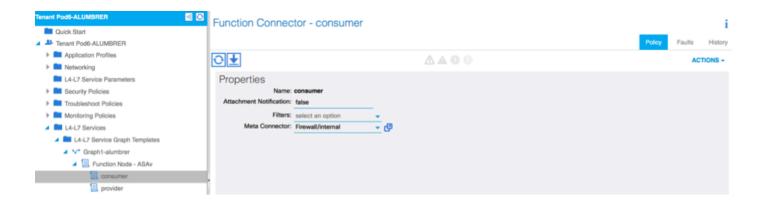


問題がなければ、新しい展開済みデバイスとグラフインスタンスが表示されます。

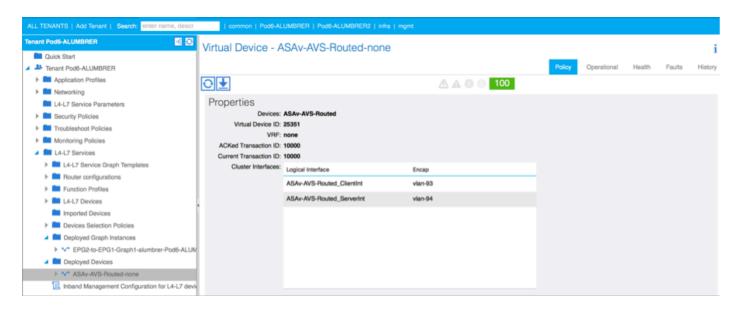


確認

• サービスグラフを作成した後で確認すべき重要な点の1つは、コンシューマ/プロバイダー関係が適切なメタコネクタで作成されていることです。[Function Connector Properties]で確認します。



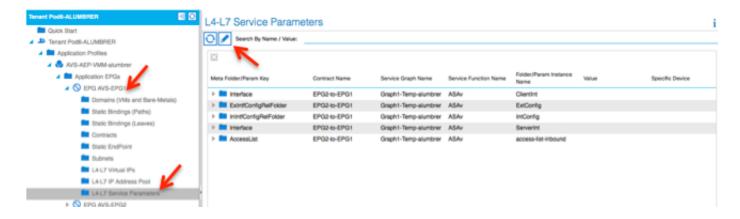
注:ファイアウォールの各インターフェイスには、AVSダイナミックプールからencapvlanが割り当てられます。障害がないことを確認します。



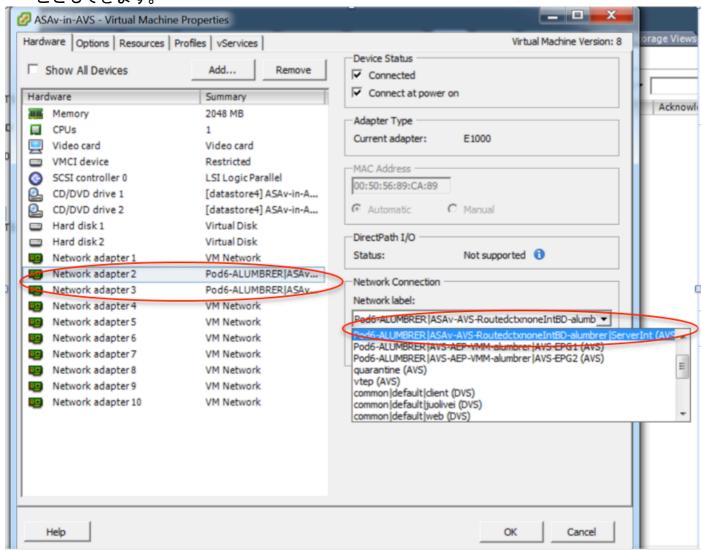
• 次に、ASAvにプッシュされた情報も確認できます

```
NSA∨-w-AUS# show interface ip brief
Interface
                            IP-Address
                                            OK? Method Status
                                                                              Prot
ocol
ligabitEthernet0/0
                           192.168.10.1
                                            YES manual up
                                                                              up
                                            YES manual up
igabitEthernet0/1
                           172.16.1.1
                                                                              uр
igabitEthernet0/2
                                            YES unset
                           unassigned
                                                       administratively down up
iigabitEthernet0/3
                                            YES unset
                                                        administratively down up
                           unassigned
                                                        administratively down up
iigabitEthernet0/4
                                            YES unset
                           unassigned
igabitEthernet0∕5
                                            YES unset
                                                       administratively down up
                           unassigned
igabitEthernet0/6
                                                       administratively down up
                           unassigned
                                            YES unset
iigabitEthernet0/7
                           unassigned
                                            YES unset
                                                       administratively down up
ligabitEthernet0/8
                                            YES unset
                                                        administratively down up
                           unassigned
¶anagement0/0
                           10.201.35.223
                                            YES CONFIG up
ASAv-w-AUS# show run access-list
iccess-list access-list-inbound extended permit tcp any any eq www
access-list access-list-inbound extended permit tcp any any eq https
access-list access-list-inbound extended permit tcp any any eq ssh
ccess-list access-list-inbound extended permit icmp any any
#2UA-w-AUS#
```

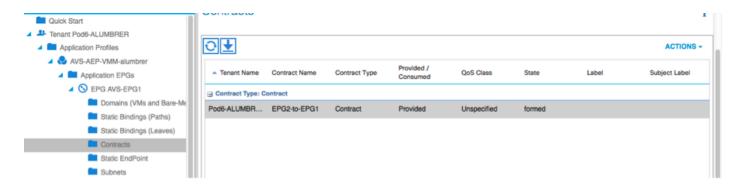
• 新しい契約がEPGの下に割り当てられます。今後、アクセスリストに何らかの変更を加える 必要がある場合は、プロバイダーEPGのL4-L7サービスパラメータを変更する必要があります



vCenterでは、シャドウEPGが各FWインターフェイスに割り当てられていることを確認することもできます。

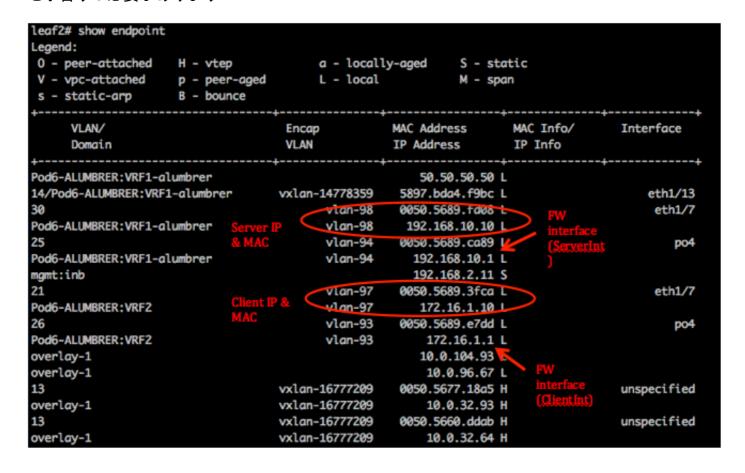


このテストでは、2つのEPGを標準契約と通信させ、これら2つのEPGは異なるドメインと異なる VRFにあるため、これらの間のルート漏出は以前に設定されています。これにより、FWが2つの EPG間でルーティングとフィルタリングを設定するときに、サービスグラフを挿入した後に少し 簡素化されます。EPGおよびBDで以前に設定したDGは、契約と同じように削除できます。L4-L7によってプッシュされた契約だけがEPGの下に残ります。



標準の契約が削除されると、トラフィックがASAvを通過していることを確認できます。クライアントがサーバに要求を送信するたびに、show access-listコマンドでルールのヒットカウントが増加します。

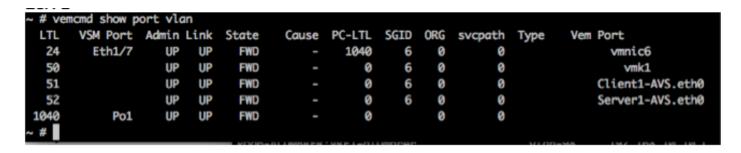
リーフでは、クライアントとサーバのVMおよびASAvインターフェイスに対してエンドポイントを学習する必要があります



ESX-1

~ #	vemcmd show p	ort vl	an								
LT	L VSM Port	Admin	Link	State	Cause	PC-LTL	SGID	ORG	svcpath	Type	Vem Port
2	2 Eth1/5	UP	UP	FWD	-	1040	4	0	0		vmnic4
2	3 Eth1/6	UP	UP	FWD		1040	5	0	0		vmnic5
5	9	UP	UP	FWD	-	0	4	0	0		vmk1.
5	1.	UP	UP	FWD	-	0	4	0	0		ASAv-in-AVS.eth1
5	2	UP	UP	FWD	-	0	4	0	0		ASAv-in-AVS.eth2
104	Po1	UP	UP	FWD		0		0	0		

ESX-2



最後に、送信元EPGと宛先EPGのPCタグがわかっている場合は、リーフレベルでもファイアウォールルールを確認できます。



EPG2



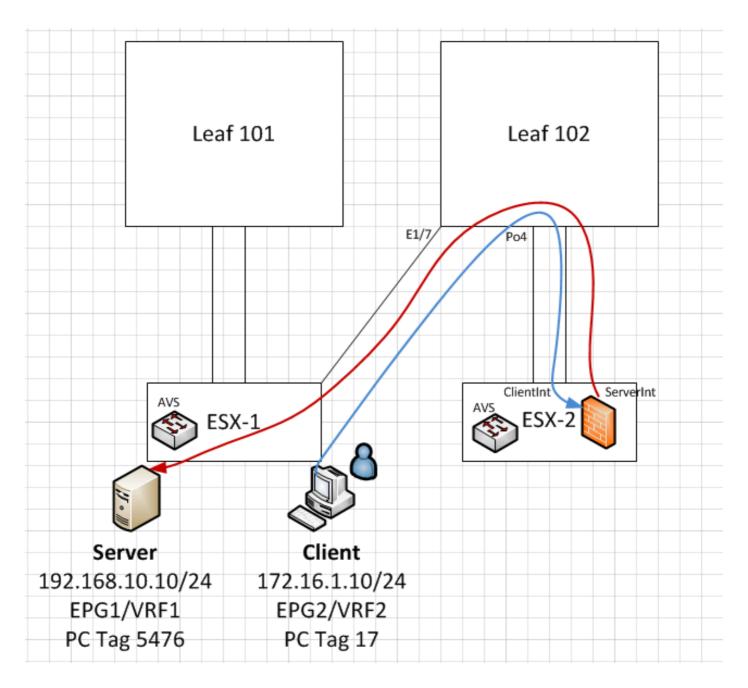
フィルタIDをリーフのPCタグと一致させて、FWルールを確認できます。

leaf2# show zor	ning-rule g	rep '17\ 5476'					
4141	17	32775	default	enabled	2916352	permit	src_dst_any(5)
4142	32775	17	default	enabled	2916352	permit	src_dst_any(5)
4139	5476	49156	14	enabled	2555904	permit	src_dst_any(5)
4140	49156	5476	14	enabled	2555904	permit	src_dst_any(5)
leaf2#							

注: EPG PCTags/Sclassは直接通信しません。通信は、L4-L7サービスグラフの挿入によって作成されたシャドウEPGを介して中断または結合されます。

サーバへの通信クライアントが動作します。

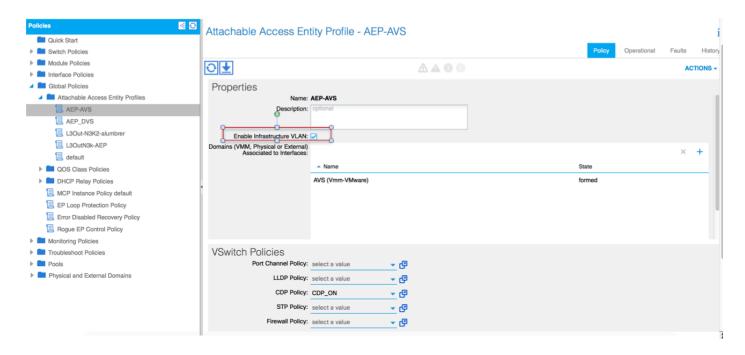
```
cisco@cisco-UbuntuClient:~$ ifconfig
eth1
          Link encap:Ethernet HWaddr 00:50:56:89:3f:ca
          inet addr:172.16.1.10 Bcast:172.16.1.255 Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: fe80::250:56ff:fe89:3fca/64 Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
          RX packets:346596 errors:0 dropped:97 overruns:0 frame:0
          TX packets:533034 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:33670388 (33.6 MB) TX bytes:42734068 (42.7 MB)
          Link encap:Local Loopback
lo
          inet addr:127.0.0.1 Mask:255.0.0.0
          inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
          UP LOOPBACK RUNNING MTU:65536 Metric:1
          RX packets:170350 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:170350 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:18739044 (18.7 MB) TX bytes:18739044 (18.7 MB)
cisco@cisco-UbuntuClient:~$ ssh 192.168.10.10
cisco@192.168.10.10's password:
Welcome to Ubuntu 14.04 LTS (GNU/Linux 3.13.0-24-generic x86_64)
 * Documentation: https://help.ubuntu.com/
Last login: Mon Feb 1 10:14:11 2016 from 172.16.1.10
cisco@cisco-UbuntuClient:~$ $
```



トラブルシュート

VTEPアドレスが割り当てられていない

AEPで[Infrastructure Vlan]がチェックされていることを確認します。



サポートされていないバージョン

VEMのバージョンが正しいことを確認し、適切なESXi VMWareシステムをサポートします。

```
~ # vem version
Running esx version -1746974 x86_64
VEM Version: 5.2.1.3.1.10.0-3.2.1
OpFlex SDK Version: 1.2(1i)
System Version: VMware ESXi 5.5.0 Releasebuild-1746974
ESX Version Update Level: 0
```

VEMとファブリック通信が機能しない

```
- Check VEM status

- Try reloading or restating the VEM at the host:

vem reload

vem restart

- Check if there's connectivity towards the Fabric. You can try pinging 10.0.0.30 which is

(infra:default) with 10.0.0.30 (shared address, for both Leafs)

~ # vmkping -I vmk1 10.0.0.30

PING 10.0.0.30 (10.0.0.30): 56 data bytes

--- 10.0.0.30 ping statistics ---

3 packets transmitted, 0 packets received, 100% packet loss

If ping fails, check:
```

- Check OpFlex status - The DPA (DataPathAgent) handles all the control traffic between AVS and APIC (talks to the immediate Leaf switch that is connecting to) using OpFlex (opflex client/agent).

All EPG communication will go thru this opflex connection. ~ # vemcmd show opflex Status: 0 (Discovering) Channel0: 0 (Discovering), Channel1: 0 (Discovering) Dvs name: comp/prov-VMware/ctrlr-[AVS]-vCenterController/sw-dvs-129 Remote IP: 10.0.0.30 Port: 8000 Infra vlan: 3967 FTEP IP: 10.0.0.32 Switching Mode: unknown Encap Type: unknown NS GIPO: 0.0.0.0 you can also check the status of the vmnics at the host level: ~ # esxcfg-vmknic -1 Interface Port Group/DVPort IP Family IP Address Netmask Broadcast MAC Address MTU TSO MSS Enabled Type vmk0

この時点で、ESXiホストとリーフの間のファブリック通信が正しく動作していないと判断できます。一部の検証コマンドは、リーフ側でチェックして根本原因を特定できます。

```
leaf2# show cdp ne
```

```
Capability Codes: R - Router, T - Trans-Bridge, B - Source-Route-Bridge
S - Switch, H - Host, I - IGMP, r - Repeater,
V - VoIP-Phone, D - Remotely-Managed-Device,
s - Supports-STP-Dispute
```

Device-ID	Local Intrfce	Hldtme	Capability	Platform	Port ID
AVS:localhost.loca	aldomainmain				
	Eth1/5	169	SIS	VMware ESXi	vmnic4
AVS:localhost.loca					
	Eth1/6	169	SIS	VMware ESXi	vmnic5
N3K-2(FOC1938R02L)					
	Eth1/13	166	RSIs	N3K-C3172PQ-	-1 Eth1/13

```
leaf2# show port-c sum
```

```
Flags: D - Down P - Up in port-channel (members)  \mbox{I - Individual} \quad \mbox{H - Hot-standby (LACP only)}
```

s - Suspended r - Module-removed

S - Switched R - Routed

U - Up (port-channel)

M - Not in use. Min-links not met

F - Configuration failed

Group Port- Type Protocol Member Ports Channel

5 Po5(SU) Eth LACP Eth1/5(P) Eth1/6(P)

Po5を介して接続されたESXiで使用される2つのポートがあります

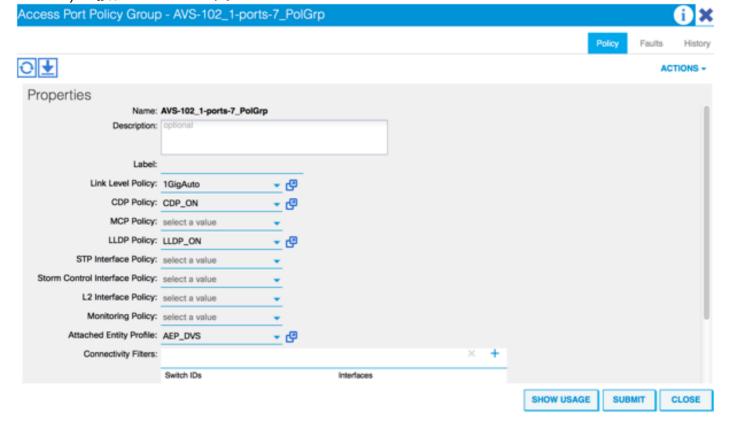
leaf2# show vlan extended

VLAN Name		Ports				
infra:default	active	Eth1/1, Eth1/20				
	active	Eth1/13				
mgmt:inb	active	Eth1/1				
	active	Eth1/5, Eth1/6, Po5				
	active	Eth1/1				
::	active	Eth1/5, Eth1/6, Po5				
common:pod6_BD	active	Eth1/5, Eth1/6, Po5				
	infra:default mgmt:inb	infra:default active active mgmt:inb active active active active :: active				

VLAN	Type	Vlan-mode	Encap	
13	enet	CE	vxlan-16777209, vlan-3967	
19	enet	CE	vxlan-14680064, vlan-150	
22	enet	CE	vxlan-16383902	
26	enet	CE	vxlan-15531929, vlan-200	
27	enet	CE	vlan-11	
28	enet	CE	vlan-14	
36	enet	CE	vxlan-15662984	

上記の出力から、インフラストラクチャVLANが許可されていないか、ESXiホスト(1/5-6)に接続するアップリンクポートを通過しないことが確認できます。 これは、インターフェイスポリシーまたはスイッチポリシーがAPICで設定されている設定が誤っていることを示します。両方をチェックします。

[Access Policies] > [Interface Policies] > [Profiles Access Policies] > [Switch Policies] > [Profiles] この場合、図に示すように、インターフェイスプロファイルが誤ったAEP(DVSに使用される古いAEP)に接続されています。



AVSに対して正しいAEPを設定すると、リーフの適切なアンリンクを通じてインフラストラクチャVLANが表示されます。

leaf2# show vlan extended

VLAN Name	Status Ports	
13 infra:default	active Eth1/1, Eth1/5, Eth1/6, Eth1/20, Po5	_
19	active Eth1/13	
22 mgmt:inb	active Eth1/1	
26	active Eth1/5, Eth1/6, Po5	
27	active Eth1/1	
28 ::	active Eth1/5, Eth1/6, Po5	
36 common:pod6_BD	active Eth1/5, Eth1/6, Po5	
VLAN Type Vlan-mode Encap		

```
vxlan-16777209, vlan-3967
 13
     enet CE
                     vxlan-14680064, vlan-150
 19 enet CE
 22 enet CE
                     vxlan-16383902
                     vxlan-15531929, vlan-200
 26 enet CE
 27 enet CE
                     vlan-11
 28 enet CE
                      vlan-14
 36
    enet CE
                      vxlan-15662984
and Opflex connection is restablised after restarting the VEM module:
~ # vem restart
stopDpa
VEM SwISCSI PID is
Warn: DPA running host/vim/vimuser/cisco/vem/vemdpa.213997
Warn: DPA running host/vim/vimuser/cisco/vem/vemdpa.213997
watchdog-vemdpa: Terminating watchdog process with PID 213974
~ # vemcmd show opflex
Status: 0 (Discovering)
Channel0: 14 (Connection attempt), Channel1: 0 (Discovering)
Dvs name: comp/prov-VMware/ctrlr-[AVS]-vCenterController/sw-dvs-129
Remote IP: 10.0.0.30 Port: 8000
Infra vlan: 3967
FTEP IP: 10.0.0.32
Switching Mode: unknown
Encap Type: unknown
NS GIPO: 0.0.0.0
~ # vemcmd show opflex
Status: 12 (Active)
Channel0: 12 (Active), Channel1: 0 (Discovering)
Dvs name: comp/prov-VMware/ctrlr-[AVS]-vCenterController/sw-dvs-129
Remote IP: 10.0.0.30 Port: 8000
Infra vlan: 3967
FTEP IP: 10.0.0.32
Switching Mode: LS
Encap Type: unknown
NS GIPO: 0.0.0.0
```

関連情報

アプリケーション仮想スイッチのインストール

<u>シスコ『Cisco Application Virtual Switch Installation Guide, Release 5.2(1)SV3(1.2)』</u> VMwareを使用したASAvの導入

シスコ『Cisco Adaptive Security Virtual Appliance(ASAv)クイックスタートガイド』、9.4

Cisco ACIおよびCisco AVS

シスコ 『Cisco ACI Virtualization Guide, Release 1.2(1i)』

シスコアプリケーションセントリックインフラストラクチャを使用したサービスグラフ設計ホワイトペーパー

<u>シスコアプリケーションセントリックインフラストラクチャを使用したサービスグラフ設計ホワ</u>イトペーパー

<u>テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems</u>